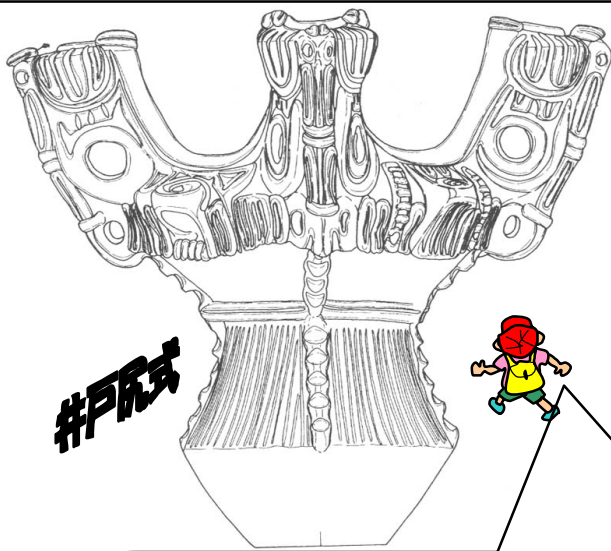


# 女夫石遺跡発掘調査速報

## No25

これまで、縄文時代の土器の名前をいくつか取り上げてきました。「馬鹿笑い土器」とか呼んでいましたが、これは正式な名前ではなくてあくまでもニックネームです。では一体本当の名前は？ということで今回は女夫石遺跡で出てくる縄文土器の名前を紹介しますね。どんな風に土器の模様などが変化するのかを知ってもらえればうれしいです。割れてしまった小さな土器のかけらでも、名前があるし、縄文時代の中のどの辺の時期なのかとか、どの地域と関連するのかとか、どんな道具で模様をつけたのかとか色々なことが分かるのです。「一片の土器にも五分の魂」ということなのだ～！！ということで、石之坪遺跡(円野町)から出土した土器の図面を紹介します。



これが井戸尻式(勝坂式)だ！とっても複雑な形をしていて、模様も立体的だね！器の形もちょっと変っているよね。もちろん井戸尻式の中にも普通っぽい土器もあるけどね。何とんでもこの時期の土器はなんともいえないはやなかな感じがします。それにしてもこんな形でこんな模様の土器をつくる井戸尻式の時代に生きていた縄文人は何を考えていたんだろうね？

ズリ: 今回は土器の名前を教えてください！縄文時代ってとーっても長いから、いろいろな土器が使われていそうだもんね。それぞれに名前がついていて当たり前だよな。きっと、地域によっても違うんだよ。山梨と鹿児島じゃ違うような気がするもんね！

マキ: 女夫石遺跡で今のところ一番古いのは井戸尻式(いどじりしき)っていうらしいよ、勝坂式(かつさかしき)ともいうんだってさ！

ズリ: とっても模様が複雑だし、立体的だね。一番新しい縄文土器は何だろうね？

マキ: 曾利式(そりしき)土器らしいよ。ほら、あの「馬鹿笑い土器」だよ！ハの字の模様がたくさんついているとってもシンプルな土器だよ！

ズリ: 井戸尻式土器は下の地層からでているから、曾利式土器よりも古いんだよな？

マキ: そうだね、一番下の地層から上の層まで70cm位あるから、その間の土器はどうなっているんだろうね？

ズリ: 少しずつ変化しているみたいだよ。曾利式土器も最初の頃は井戸尻式土器みたいに派手な模様がついているのもあるみたいだしね。それにしても縄文土器って、なんだかすごいよね。今じゃ考えも付かないような模様や器の形をしているし、芸術的だよな！(つづく)



井戸尻式に比べれば、派手さはないけど、左の土器なんかはまだまだ複雑で立体的な模様が付いているよね。右は本当にシンプルな形と模様をしているよね。縄文土器はいきなり形や模様が変わったりするのではなくて、少しずつ変化するんだよ！

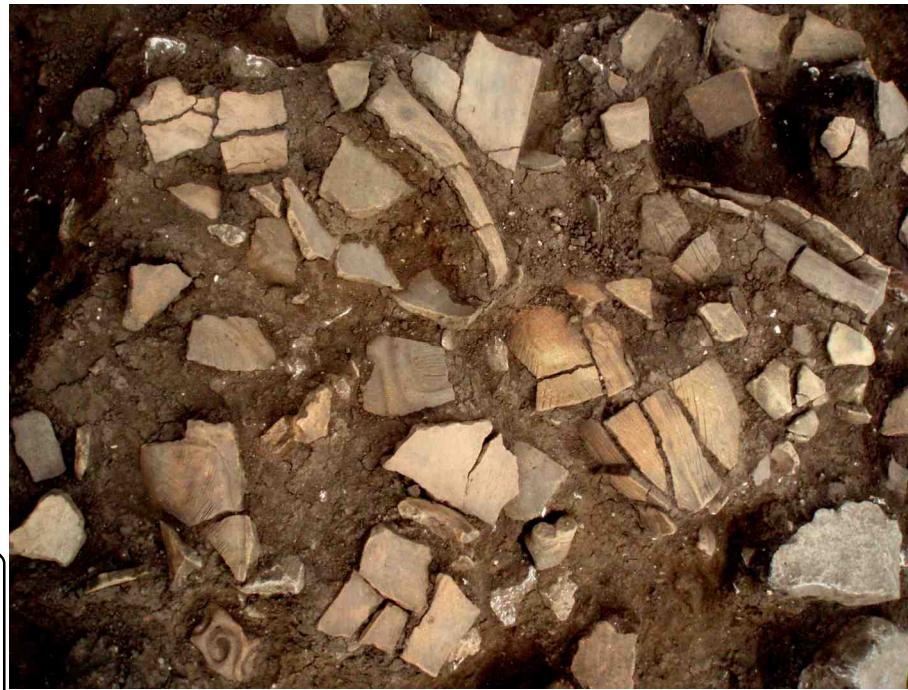
曾利式の前半



## 曾利式の間



口縁部（こうえんぶ・口の部分）の様子は少し立体的だけどシンプルな模様だね。胴部の模様は渦巻きが組み合わさっていて一見複雑だけど、立体的ではないよね。女夫石遺跡では、この口縁部が結構出ています。



割れてしまっていますが、少なくとも三つの土器が重なり合っています。遺跡の中から壊れていない状態で土器が出てくることはマレです。

さて、この土器はどの時代の土器でしょうか？結構シンプルな模様のような気がしますけど・・・

未解の謎：2景

模様は平べったい感じになって、薄い粘土紐を貼り付けた後に撫でつけていたり、沈線（ちんせん）だけで模様を付けていたりします。曾利式の間頃の頃と渦模様は似ているけど、立体感はなくなっているね。

右側が「馬鹿笑い」だ！井戸尻式に比べれば本当にシンプルだね。女夫石遺跡ではこの土器が作られた頃以降には、巨石を中心に土器・石器・土偶などを捨てることを止めてしまい、村も衰退に向かったようだ。この土器以降のものが今のところ出ていないんだってさ。次に出てくるのが平安時代らしいよ。



## 曾利式の後半